

2022年8月17日

日本船主協会

徳山下松港開港 100 周年記念事業への協力
～「大島丸」体験航海および「教員向け研修会」の実施～

当協会では、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を広く一般の皆様にご覧いただくための広報活動を展開するとともに、学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対しても授業への協力、海事施設の見学機会や資料の提供等を実施しております。

今般、山口県周南市にて徳山下松港開港 100 周年記念事業の一環として、①大島商船高専「大島丸」体験航海および②「小学生社会見学事業」引率教員向け研修会に協力しましたので、その模様をお知らせします。

①大島商船高専「大島丸」体験航海

8月11日（木・祝）に徳山下松港開港 100 周年記念イベントが晴海ふ頭にて開催されており、その中で「大島丸」体験航海を実施し、地元の小・中学生および保護者など 約 60 名が参加しました。参加者は、船を操縦する船橋（ブリッジ）やエンジンルーム、機関制御室などを見学するとともに、デッキからは荷下ろしをするばら積み船や LPG 船など、普段陸から見ることができない徳山下松港の様子を海の上から眺めることができました。

また当日は、天候にも恵まれ炎天下の中での開催でもあったことから、船内休憩スペース（学生ホール）にて、当協会ノベルティ「船ってサイコ～」を読む様子も見られました。

当日の晴海ふ頭には、海技教育機構の練習船「大成丸」や徳山海上保安部の巡視船「くろかみ」も入港し、多くの見学者でにぎわっており、体験航海終了後の大島丸は、体験航海参加者や同会場の見学者等に見送られて帰路につきました。



（荷役中のばら積み船）



（操船中の船長と参加者）

②「小学生社会見学事業」引率教員向け研修会

8月12日（金）に周南地域の教員 約25名を対象に港・海運に関する研修会を実施しました。本研修会は9月～11月に実施する「小学生社会見学事業※」に向けて、引率の教員に徳山下松港の特徴や港湾や海上輸送の役割・重要性を改めて認識してもらい、授業に役立てていただくために行われたものです。

当日は、座学および現場研修の2部構成で行われ、座学では、周南市および国交省中国地方整備局から、本事業の趣旨や徳山下松港の概要など、「港は宝」であるということを知ってもらい、愛着と誇りを醸成し、将来周南地域で活躍する大人に成長してもらいたいなどの説明がありました。その後、当協会からは同港で活躍するばら積み船および日常生活に欠かせないコンテナ船に関し説明するとともに、船・港・そこで働く人が連携することで、周南地域だけではなく、全国の皆さんの生活や経済活動を支えていることなど先生を通じて児童にも知ってほしいと説明しました。

現場研修では、大津島巡航フェリーにて港内を視察し、荷役中のばら積み船や航行するLPG船をはじめとする様々な船種、また、貯炭場やコンテナターミナルを見ることができました。

※港や海、地場産業への関心と興味を高め、将来的な地元就業へと繋げるため、周南市、下松市、光市の小学5年生を対象に行う港での仕事やコンビナート企業の社会見学



(多数の船が貿易を支えている説明)



(初めての試み、コンテナ模型を活用)



(港内で荷役するばら積み船)

当協会では、今後とも皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動を実施してまいります。